

# オンライン短期海外留学プログラムの 効果的な在り方に関する一考察

天 木 勇 樹

**Abstract:** The purpose of this study is to explore effective approaches to online short-term study abroad as compared to traditional short-term study abroad programs applicable to Japanese college students. Online study abroad programs are programs in which students taking online live sessions offered in a different country. The students were divided into two groups. Students in one group had a B1 level on the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) , and students in the other group had a B2 level on the CEFR. The respondents were asked to what degree they were interested in participating in the three online study abroad programs. Compared to the three traditional short-term study abroad programs, and regardless of their English levels on the CEFR, the respondents had positive and negative factors affecting participation in online study abroad programs. Those negative factors included the limited opportunities to engage in local communities in the host culture and the limited duration of the online programs relative to opportunity to develop English language skills appropriate to the home country. This study can help Japanese universities to plan effective online study abroad programs for college students.

## 1 はじめに

### 1.1 研究の背景

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大を続ける中、海外留学の再開を

心待ちにし、短期留学や長期留学を大学生生活の大きな目標に据えている学生は多い。このような状況の中、ワクチンを接種済みの学生を受け入れる海外の大学が増えてきたが、留学希望者全員を海外に派遣できる状況ではないため、夏休みや春休みの期間にオンライン短期留学プログラムを実施する国内大学が多い。オンライン短期留学は、通常の現地留学に比べ、留学費用を低く抑えることができるため、留学の費用面で海外留学を諦めていた学生が、参加することができるといった利点がある (Durden, 2020)。さらに、大学が提供するオンライン短期留学プログラムは、日本時間で実施される場合が多く、深夜の時間帯に授業を受ける必要がないといった利点もある。本調査では、オンライン短期留学を経験したことがない学生が、オンライン短期留学のどの点に魅力を感じ、どの点に対して不安や否定的な考えを持っているのかを調査した。さらに、実際にオンライン短期留学を経験した学生の満足度や改善を希望する点などを聞き取り調査し分析を行った。

本調査では、東京都内にある私立 S 大学で開講された海外留学入門講座を履修する学生を対象にオンライン短期留学に対する魅力や不安に関する調査を行なった。本稿では、学生の視点から見たオンライン短期留学プログラムに対する魅力やオンライン短期留学についての不安要素に対する具体的な改善策を検討する。

## 1.2 短期留学プログラムの特色

S 大学では、夏休みや春休み期間中に参加できる 1 週間から 5 週間程度の様々な短期留学プログラムを学生に提供している。短期留学プログラムには、アメリカ、イギリス、カナダ等の英語圏で行われる語学研修やインターンシップ・プログラム、フィリピン、スペイン、フランス等で行われる語学研修プログラムなど、多岐に渡る留学プログラムがある。その中で、S 大学の海外派遣学生の留学先 1 位は米国であることを参考にし、本調査では米国の大学等の教育機関が提供する 3 つの短期留学プログラムを調査の対象とした。なお、本調査で対象とした 3 つの留学プログラムは、全ての学部の学生が参加可能である短期留学プログラムである。

1 つ目のプログラムは、語学力を向上させることで円滑な英語でのコミュ

コミュニケーション能力を高めることを到達目標とする「短期留学プログラム A」である。2つ目は、より高度な外国語運用能力、異文化適応能力、問題発見・解決能力等を養うことを到達目標とする「短期留学プログラム B」である。3つ目の留学プログラムは、英語でのコミュニケーション能力向上に加え、様々な社会的企業の役割や活動を理解することで、より良い社会を築き、社会問題の解決に導くための実践的な方法論を体得することを到達目標とする「短期留学プログラム C」である。

### 1.3 短期留学プログラムの概要

1つ目の「短期留学プログラム A」は、ワシントン州にある A 大学が提供する語学研修プログラムを調査の対象とした。英語によるコミュニケーション力強化を目的とした英語授業に参加するプログラムであり、表 1 は、2019 年度に実施された通常の現地留学と 2020 年度に実施したオンライン短期留学のプログラム内容を比較した概要である。

表 1 短期留学プログラム A の概要

実施年度	2019 年度	2020 年度
留学形態	通常の現地短期留学	オンライン短期留学
研修期間	2020 年 2 月 4 日～2 月 28 日の 25 日間	2021 年 2 月 9 日～2 月 27 日の 19 日間
受講場所	米国ワシントン州にある A 大学	国内の自宅等 【オンライン学習ツール】ZOOM と Canvas を利用し授業を受講
認定単位	2 単位	2 単位
配当年次	学部 1～4 年生	学部 1～4 年生
語学レベル	初級～上級	初級～上級
研修費用	約 47 万円 (研修費、ホームステイ滞在費、課外活動費、航空運賃等)	約 20 万円 (研修費)
募集人数	約 25 名	約 25 名
授業時間	月曜日～金曜日 9 時～12 時 20 分 (米国時間)	火曜日～土曜日 9 時～12 時 (日本時間)
滞在先	現地ホームステイ	国内の自宅等
課外活動	午後はフィールドトリップやアクティビティに参加。キャンパスツアー、市内観光、スポーツ観戦に参加可能	ワシントン州内の大学や市内の名所について学ぶバーチャルツアーがプログラムの一環として含まれる

2つ目の「短期留学プログラムB」は、カリフォルニア州にあるB大学が提供するプログラムである。2019年度は、コミュニケーションと文化をテーマとしたコース、グローバルなビジネスに必要な知識の習得やビジネスの場で使われる英語能力向上のためのトレーニングを受けるコース、理工系英語に特化した授業を受講するコースの3つのコースから選択可能であった。2020年度は、異文化コミュニケーションをテーマとした専門授業や英語での円滑なコミュニケーションを図るためのトレーニングを行うコースと理工系英語に特化した専門授業やディスカッション等を通してコミュニケーション力や問題解決能力を向上させるトレーニングを受けるコースの2つから学生はいずれか1つを選択した。本調査では、文系学生を対象とした授業の中で調査を行ったため、2019年度のコミュニケーションと文化をテーマとしたコースおよび2020年度の異文化コミュニケーションをテーマとしたコースの2つのコースを調査の対象プログラムとし、概要をまとめたものが表2である。

表2 短期留学プログラムBの概要

実施年度	2019年度	2020年度
留学形態	通常の現地短期留学	オンライン短期留学
研修期間	2020年2月12日～3月15日の33日間	2021年2月22日～3月12日の19日間
受講場所	米国カリフォルニア州にあるB大学	国内の自宅等【オンライン学習ツール】ZOOMとCanvasを利用し授業を受講
認定単位	2単位	2単位
配当年次	学部1～4年生	学部1～4年生
語学レベル	初級～上級 TOEIC® 400点, TOEFL iBT 41点, IELTS 5.0, 英語検定準2級の英語力を有することが望ましい	初級～上級 TOEIC® 400点, TOEFL iBT 41点, IELTS 5.0, 英語検定準2級の英語力を有することが望ましい
研修費用	約65万円 (研修費、ホームステイ滞在費、課外活動費、航空運賃等)	約16万円 (研修費)
募集人数	約20名	約20名
授業時間	月曜日～金曜日12時40分～16時30分 (米国時間)	月曜日～木曜日8時～11時50分/金曜日8時30分～11時20分(日本時間)
滞在先	現地ホームステイ	国内の自宅等
課外活動	授業終了後、ゲームやConversation Club等のアクティビティ参加、希望者は国立公園等での課外活動に参加可能	週1回のConversation ClubでのB大学の学生アシスタントと身近な話題をテーマに会話練習

3つ目の「短期留学プログラムC」は、非営利団体が提供するプログラムであり、社会における課題や社会イノベーションに焦点を当てたプログラムである。授業では、ワークショップやサンフランシスコ市内のNPOや現地企業の訪問を通じ、中国、インドネシア、韓国、ベトナム、タイ等のアジア各国からの参加者と英語で討議し、社会イノベーションについて理解を深める。2019年度および2020年度のプログラム内容の概要をまとめたものが表3である。

表3 短期留学プログラムCの概要

実施年度	2019年度	2020年度
留学形態	通常の現地短期留学	オンライン短期留学
研修期間	2020年2月6日～2月17日の12日間	2021年2月4日～2月10日の7日間
受講場所	サンフランシスコ市内	国内の自宅等【オンライン学習ツール】ZOOMとCanvasを利用し授業を受講
認定単位	1単位	1単位
配当年次	学部1～4年生	学部1～4年生
語学レベル	TOEIC® 400点、TOEFL iBT 41点、IELTS 5.0、英語検定準2級の英語力を有することが望ましい	TOEIC® 400点、TOEFL iBT 41点、IELTS 5.0、英語検定準2級の英語力を有することが望ましい
研修費用	約50万円（研修費、ホテル滞在費、航空運賃等）	約11万円（研修費）
募集人数	5名	5名
授業時間	日曜日を除く毎日8時～21時30分（米国時間）	土日を含む毎日9時～12時（日本時間）
滞在先	現地ホテル	国内の自宅等
課外活動	シリコンバレーやサンフランシスコ市内のNPO、グローバル企業の他、サンフランシスコ郊外の大学への訪問	シリコンバレーやサンフランシスコ市内のNPO、グローバル企業の他、サンフランシスコ郊外の大学へのバーチャルツアーを実施

#### 1.4 研究の目的

オンライン留学を経験したことがない学生は、通常の現地留学のプログラム内容と比べて、オンライン短期留学のプログラム内容のどの点に対して魅力を感じ、オンライン短期留学に対しどのような不安を抱いているのかを分析した。また、学生の語学力の違いにより、オンライン短期留学に対する捉え方や不安を感じる点が異なる可能性もあるため、学生の語学力のレベル別で分析を行なった。さらに、実際にオンライン短期留学に参加した学生を対象にオンライン留学の満足度や改善を希望する点について調査し分析を行った。今後の留学形態の一つとなる可能性があるオンライン短期留学に対し、効果的なオンライン短期留学プログラムを学生に提供するため、具体的な学

習サポート体制やプログラム内容の改善策を検討した。

## 2 調査概要

### 2.1 調査方法（量的調査）

本調査では、海外留学入門講座を履修している学生を対象に、オンラインによるアンケート調査を実施した。本講座は、留学に関する理解、留学先選定や海外の大学での科目履修方法、異文化適応の3つの段階に分けて学ぶ内容の講座である。履修者の9割が1年生、残りが2年生であった。本講座は、例年同様に海外留学に興味はあるが留学に行くかどうか未定の学生が全体の約6割を占め、長期留学を希望する学生が2割、残りの2割が短期留学希望者である。また、オンライン短期研修を実施した米国の大学の協力のもとオンライン短期留学に実際に参加した日本人学生を対象に振返りのアンケート調査を実施した。

本アンケート調査では、2019年度に実施した通常の現地留学と2020年度に実施するオンライン短期留学（2021年2月～3月実施）のそれぞれの募集要項の詳細を授業の中でグループで見比べ、各プログラム内容のどの点に魅力を感じ、どの点が魅力的ではないかについて話し合う機会を2020年10月頃に設けた。グループワーク終了後、アンケート調査票のURLリンクを配布し、各学生に回答を求めた。アンケート調査票の質問項目を【問1】から【問4】に示す。問3および問4では、4段階での回答（とてもそう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、全くそう思わない）を求めた。

【問1】現時点での語学力

【問2】オンライン短期留学プログラムの授業を受講する場合、一番集中して授業を受けることができる場所

【問3】通常の現地留学の場合、滞在方法や研修費用などの8つの項目に対し、それぞれどの程度魅力を感じるか。

【問4】オンライン短期留学の場合、滞在方法や研修費用などの8つの項目に対し、それぞれどの程度魅力を感じるか。

問1については、学生の語学力の違いにより通常の現地留学とオンライン短期留学の捉え方に違いがあるのではないかと推測し、4つのグループに分けるため、語学力の設問を設けた。その際、文部科学省（2018年3月作成）および一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会がそれぞれ作成した資格・検定試験とCEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment：外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）との対照表をもとに4つのCEFRレベルの選択肢（表4）から回答を求めた。

表4 CEFR との対照表

CEFR レベル	各資格・検定試験
C1	TOEIC®L&R 945点以上, TOEFL iBT 95-120点, IELTS 7.0-8.0, 英語検定1級
B2	TOEIC®L&R 785-944点, TOEFL iBT 72-94点, IELTS 5.5-6.5, 英語検定準1級
B1	TOEIC®L&R 550-784点, TOEFL iBT 42-71点, IELTS 4.0-5.0, 英語検定2級
A2	TOEIC®L&R 225-549点, 英語検定準2級

問2は、オンライン短期留学に参加する場合、自宅以外の場所でオンライン授業の受講を希望する学生もいる可能性があるため、質問項目として加えた。選択肢として、自宅、大学の教室やPCルーム、ホテル等の宿泊施設、カフェやファストフード店、貸切の個室等のレンタルスペース、短期契約可能な賃貸アパートやマンションの中から一番集中できる場所を一つ選ぶよう求めた。大学の教室やPCルームでの受講希望者が多かった場合、同じプログラムを受講している学生同士が大学の教室に集まり、オンラインの授業を大きなスクリーンで視聴し、留学先で授業を受けているような環境を提供できる可能性もある。ただし、これは日本国内で新型コロナウイルス感染症の拡大が収束している場合にのみ可能な対応である。

問3と問4では、通常の現地留学とオンライン短期留学のそれぞれのプログラム募集要項を参考にし、8つの項目に対して、各学生がどの程度魅力を感じるのか回答を求めた。8つの項目は、次の通りである。

- ①プログラム内容全体に対し、どの程度魅力を感じるか

- ②留学期間に対し、どの程度魅力を感じるか
- ③留学費用に対し、どの程度魅力を感じるか
- ④滞在方法に対し、どの程度魅力を感じるか
- ⑤留学先の国・地域に対し、どの程度魅力を感じるか
- ⑥語学力の向上を見込めるプログラムであると思うか
- ⑦単位認定できるプログラムであることに魅力を感じるか
- ⑧国内外の学生との交流機会の可能性があると思うか

次に、2021年2月から3月にオンライン短期留学を実施した米国の大学および学生を派遣した国内大学の協力のもと日本人学生を対象にアンケート調査を実施した。アンケート対象者には、海外留学入門講座の履修者以外の留学プログラム参加者も含まれている。調査方法は、オンライン短期留学終了後、アンケート調査票のURLリンクを配布し、各学生に回答を求めた。アンケート調査票の質問項目を【問1】から【問10】に示す。

- 【問1】 オンライン短期留学参加時点での語学力
- 【問2】 約20日間の留学期間や留学費用の適切さ
- 【問3】 オンライン短期留学期間中の受講場所
- 【問4】 英語圏の国をオンライン短期留学先として選択したことの満足度合い
- 【問5】 語学力向上を実感したか
- 【問6】 単位を取得できることに対する魅力度合い
- 【問7】 オンライン短期留学を通じた国内外の友人作り
- 【問8】 日本国内の大学のオンラインによる英語授業と比較した場合のオンライン短期留学の満足度合い
- 【問9】 留学先が提供する授業後のアクティビティや課外活動の満足度合い
- 【問10】 オンライン短期留学の全体的な満足度合い

## 2.2 調査方法（質的調査）

海外留学入門講座を履修している学生を対象として、アンケート調査票の質問項目に自由記述欄を設け、オンライン短期留学に対して不安を感じている点について率直な意見を求めた。オンライン短期留学は、渡航費や滞在費が必要ではないため、費用面では通常の現地留学に比べ費用を低く抑えることができ



るという利点が考えられる一方で、多くの学生が経験したことがないオンライン短期留学に対して、不安を感じている部分が多くあると推測できる。

次に、2021年2月から3月の間にオンライン短期留学に参加した学生を対象にオンライン短期留学を振り返り、良かったと感じた点および改善してほしい点・充実させてほしい点について意見を求めた。実際にオンライン短期留学に参加した学生のコメントを分析し、オンライン短期留学に関する具体的な改善策を考察した。

### 3 調査結果

#### 3.1 回答者の概要

本調査の有効回答数は、全体で75件であった。回答者の内訳は1年生69名、2年生6名である。CEFRレベルC1およびA2の学生はいなかったため、本調査ではCEFRレベルB2およびB1の2つのグループに分け、それぞれの質問項目について分析した。CEFRレベルB2学生は、全体の37.3%（28名）、CEFRレベルB1学生は62.7%（47名）であった。

また、オンライン短期留学に参加する場合の受講希望場所の集計結果を表5にまとめた。CEFRレベルB1学生の約8割が自宅を選択したことに対し、CEFRレベルB2学生は約5割にとどまり、大学の教室やPCルーム等の自宅以外での受講を希望する学生がいることが示された。

表5 オンライン短期留学の受講希望場所

オンライン授業の受講希望場所	語学力別	
	CEFRレベル B1 学生	CEFRレベル B2 学生
自宅	82.1% (n=23)	48.9% (n=23)
大学の教室やPCルーム	10.7% (n=3)	29.8% (n=14)
ホテル等の宿泊施設	7.2% (n=2)	8.5% (n=4)
カフェやファストフード店	0% (n=0)	2.1% (n=1)
短期契約可能な賃貸アパートやマンション	0% (n=0)	10.6% (n=5)
その他	0% (n=0)	0% (n=0)
合計	100% (n=28)	100% (n=47)

### 3.2 通常の現地短期留学とオンライン短期留学についての量的調査結果

表 6-1 から表 6-6 では、それぞれの海外留学プログラム内容に対し、学生がどの程度魅力的であると感じているのかを「とてもそう思う」を 4 点、「ややそう思う」を 3 点、「あまりそう思わない」を 2 点、「全くそう思わない」を 1 点とし、平均値と変動係数を算出した。表 6-1 ～表 6-6 において、項目①～⑧は、それぞれ、①プログラム内容、②留学期間、③留学費用、④滞在方法、⑤留学先の国・地域、⑥語学力向上の見込み、⑦単位認定、⑧国内外の大学生との交流の機会である。

通常の現地短期留学とオンライン短期留学のそれぞれの項目の平均値と標準偏差から変動係数を求め、変動係数を比較したところ、特にオンライン短期留学では、平均値が高い項目は変動係数が小さく、平均値が低い項目は変動係数が大きくなる傾向がある（表 6-2, 表 6-4, 表 6-6）。平均値の高い項目は、その項目に対して学生が魅力的であると感じていることに対し、平均値が低い項目は、その項目に対する魅力について学生の間にはばらつきがあることがわかる。

#### 3.2.1 「短期留学プログラム A」の魅力度比較

ワシントン州の A 大学が提供するアメリカの文化の習得を通して英語のコミュニケーション能力を高めることを目標とした海外語学研修の通常の現地留学とオンライン短期留学に対するそれぞれの魅力度を調査した結果、通常の現地留学では、CEFR レベル B1 学生と B2 学生ともに大きな差はみられなかった（表 6-1）。まず、通常の現地留学する際の留学費用では、B1 学生と B2 学生ともに平均値が低い値が示され、渡航費や滞在費用が全て含まれる金額であるにもかかわらず、否定的に捉える学生が多いことがわかる。また、B1 学生の中には、25 日間という留学期間の長さに対して否定的に捉える学生がいることが示された。

オンライン短期留学プログラムについては、留学先の国・地域および単位認定されるという 2 つの項目以外は、CEFR レベル B1 学生および B2 学生ともに全ての平均値が低く、オンライン短期留学に否定的な考えを持っている学生が多いことがわかる（表 6-2）。特に低い平均値を示した項目が、滞

在方法であり、国内の自宅等で授業を受講することに対して否定的な考えを持つ学生が多くいることが示された。また、オンラインで行われるプログラム内容についても、受講期間と課外活動以外は、通常の現地留学プログラムとほぼ変わらないプログラム内容であるにもかかわらず、B1 学生および B2 学生ともに魅力を感じていない学生が多いことが明らかになった。

表 6-1 短期留学プログラム A (通常の現地留学)

項目	CEFR レベル B1 学生				CEFR レベル B2 学生			
	度数	平均値	標準偏差	変動係数	度数	平均値	標準偏差	変動係数
①	28	3.64	0.58	15.93	47	3.51	0.59	16.81
②	28	2.96	0.84	28.37	47	3.30	0.81	24.55
③	28	2.39	0.79	33.05	47	2.30	0.83	36.09
④	28	3.50	0.51	14.57	47	3.40	0.68	20.00
⑤	28	3.68	0.48	13.04	47	3.74	0.54	14.44
⑥	28	3.36	0.73	21.72	47	3.43	0.74	21.57
⑦	28	3.75	0.52	13.87	47	3.81	0.40	10.50
⑧	28	3.82	0.48	12.57	47	3.96	0.20	5.05

※項目①プログラム内容、②留学期間、③留学費用、④滞在方法、⑤留学先の国・地域、⑥語学力向上の見込み、⑦単位認定、⑧国内外の大学生との交流機会

表 6-2 短期留学プログラム A (オンライン短期留学)

項目	CEFR レベル B1 学生				CEFR レベル B2 学生			
	度数	平均値	標準偏差	変動係数	度数	平均値	標準偏差	変動係数
①	28	1.75	0.70	40.00	47	1.85	0.59	31.89
②	28	2.50	0.79	31.60	47	2.55	0.89	34.90
③	28	2.36	1.03	43.64	47	2.43	1.12	46.09
④	28	1.61	0.99	61.49	47	1.72	0.83	58.14
⑤	27	3.33	0.83	24.92	47	3.34	0.73	21.86
⑥	28	2.11	0.69	32.70	47	2.45	0.75	30.61
⑦	28	3.29	0.85	25.84	47	3.43	0.65	18.95
⑧	28	2.21	1.00	45.25	47	2.53	0.88	34.78

### 3.2.2 「短期留学プログラム B」の魅力度比較

カリフォルニア州の B 大学が提供する「短期留学プログラム B」は、語学力のみを強化する海外語学研修とは異なり、多文化社会である米国社会の状況や異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語のコミュニケーション能力の向上を目指すプログラムである。まず、通常の現地留学プログラムの内容では、留学費用および滞在方法の項目以外は、CEFR レベル B2 学生の平均値が B1 学生に比べ、高いことが示された（表 6-3）。特に国内外の大学生との交流の機会に関する項目では、B2 学生の平均値が高く、国内外の学生たちとの交流を期待していることがわかる。また、留学費用の項目では、B1 学生と B2 学生ともに低い平均値が示され、約 1 か月間の留学期間に滞在費用や渡航費等を含めた研修費（約 65 万円）を高いと感じる学生が多くいることが推測できる。滞在方法は、参加者全員がホームステイであるが、B2 学生よりも B1 学生が、滞在方法に対し、より魅力を感じていることがわかる。

表 6-3 短期留学プログラム B（通常の現地留学）

項目	CEFR レベル B1 学生				CEFR レベル B2 学生			
	度数	平均値	標準偏差	変動係数	度数	平均値	標準偏差	変動係数
①	28	3.39	0.63	18.58	47	3.55	0.65	18.31
②	28	2.82	0.72	25.53	47	3.26	0.80	24.54
③	28	2.25	0.70	31.11	47	2.06	0.85	41.26
④	28	3.57	0.50	14.01	46	3.48	0.59	16.95
⑤	28	3.57	0.50	14.01	47	3.74	0.44	11.76
⑥	28	3.39	0.69	20.35	47	3.60	0.61	16.94
⑦	28	3.50	0.64	18.29	46	3.67	0.52	14.17
⑧	28	3.71	0.54	14.56	47	3.91	0.28	7.16

表 6-4 短期留学プログラム B (オンライン短期留学)

項目	CEFR レベル B1 学生				CEFR レベル B2 学生			
	度数	平均値	標準偏差	変動係数	度数	平均値	標準偏差	変動係数
①	28	2.07	0.81	39.13	47	2.28	0.83	36.40
②	28	2.18	0.72	33.03	47	2.91	0.78	26.80
③	28	2.86	0.85	29.72	47	2.74	1.01	36.86
④	28	1.64	0.87	53.05	47	1.84	0.81	44.02
⑤	28	3.14	0.80	25.48	47	3.36	0.79	23.51
⑥	28	2.11	0.74	35.07	47	2.32	0.76	32.76
⑦	28	3.14	0.93	29.62	47	3.49	0.59	16.05
⑧	28	2.32	1.06	45.69	47	2.45	0.83	33.88

オンライン短期留学の内容については、留学費用の項目以外は、全ての項目において CEFR レベル B2 学生の平均値が高いことが示された (表 6-4)。ワシントン州の A 大学が提供するオンライン海外語学研修に比べ、B 大学が提供するプログラム内容の項目の平均値は B1 学生と B2 学生ともに高いことがわかる。また、特に高い平均値を示した項目は、2 単位が単位認定される項目であり、次に留学先の国・地域に対して魅力的であると感じた学生が多かった。オンライン短期留学期間中は自宅等での受講となり、通常の現地留学と比べ、国内外の大学生との交流や友達作りが難しいと感じる学生が多くいるため、国内外の大学生との交流機会の項目については低い平均値が示された。

### 3.2.3 「短期留学プログラム C」の魅力度比較

短期留学プログラム C の通常の現地留学の場合、サンフランシスコ市内にアジア各国からの参加者が集まり、米国が直面している社会問題や課題について参加者同士が夜遅くまで討議し、社会問題を解決に導くための実践的な方法論を学び、自己成長への意欲を高めることを目的とした留学プログラムである。さらに、毎日のディスカッションやワークショップ等を通じ、英語のコミュニケーション能力も高めることができるプログラムである。短期留学プログラム A や短期留学プログラム B は毎日 3 時間程度の授業時間であるが、短期留学プログラム C は、12 日間の短い留学期間の中で毎日午

前 8 時から 21 時 30 分までワークショップやグループワーク等が行われる。しかし、短期留学プログラム C の通常の現地留学の場合、渡航費や滞在費を含む費用が約 2 週間で約 50 万円となっているため、CEFR レベル B1 学生と B2 学生ともに留学費用に対して魅力的ではないと考える学生が多くいることが示された (表 6-5)。

また、滞在方法も他の 2 つの留学プログラムがホームステイであることに対し、短期留学プログラム C の参加者は、参加者全員がサンフランシスコ市内のホテルに滞在することになるため、滞在方法の項目も平均値が B1 学生と B2 学生ともに低い値が示された。一方で、平均値が最も高かった項目は、B1 学生と B2 学生ともに国内外の大学生との交流機会および留学先の国・地域の 2 つであり、同年代の参加者との交流や異文化理解に期待していることが伺える。

次に、7 日間のオンラインによる短期留学プログラム C では、通常の現地留学に比べ、他のプログラム同様に全体的に平均値が下がる結果となった (表 6-6)。留学先の国・地域および単位認定の項目については、通常の現地留学同様に高い平均値が示された。一方で、語学力向上の見込みについては、特に CEFR レベル B1 学生は、B2 学生に比べ、7 日間という短い期間で語学力の向上を見込めないのではないかと不安視する学生が多いため、平均値が低い値を示した可能性がある。他のオンライン短期留学プログラム同様に、留学費用も低く抑えられているにもかかわらず、プログラム内容全体が他の短期留学プログラムに比べると特殊であるため、B1 学生および B2 学生ともに魅力を感じない点であることがわかった。

表 6-5 短期留学プログラム C (通常の現地留学)

項目	CEFR レベル B1 学生				CEFR レベル B2 学生			
	度数	平均値	標準偏差	変動係数	度数	平均値	標準偏差	変動係数
①	28	3.00	0.82	27.33	47	2.89	0.91	31.49
②	28	2.32	0.61	26.29	47	2.34	0.89	38.03
③	28	1.61	0.63	39.13	47	1.74	0.87	50.00
④	28	2.89	0.79	27.34	47	2.72	0.97	35.66
⑤	28	3.64	0.49	13.46	46	3.50	0.66	18.86
⑥	28	2.82	0.98	34.75	47	2.94	0.90	30.61
⑦	28	3.29	0.81	24.62	47	3.34	0.73	21.86
⑧	28	3.64	0.62	17.03	47	3.45	0.83	24.06

※項目①プログラム内容, ②留学期間, ③留学費用, ④滞在方法, ⑤留学先の国・地域, ⑥語学力向上の見込み, ⑦単位認定, ⑧国内外の大学生との交流機会

表 6-6 短期留学プログラム C (オンライン短期留学)

項目	CEFR レベル B1 学生				CEFR レベル B2 学生			
	度数	平均値	標準偏差	変動係数	度数	平均値	標準偏差	変動係数
①	28	2.32	0.77	33.19	47	2.21	0.86	38.91
②	28	2.14	0.85	39.72	47	2.11	0.84	39.81
③	28	2.32	1.06	45.69	47	2.47	1.08	43.72
④	28	1.75	0.70	40.00	47	1.91	0.83	43.46
⑤	28	3.36	0.68	20.24	47	3.23	0.79	24.46
⑥	28	1.93	0.81	41.97	47	2.15	0.81	37.67
⑦	28	3.07	1.02	33.22	47	3.28	0.74	22.56
⑧	28	2.64	1.06	40.15	47	2.77	0.98	35.37

### 3.3 オンライン短期留学に対する不安 (質的調査結果)

海外留学入門を受講する 75 名の学生が抱くオンライン短期留学に対する不安や考えに関しての自由記述回答の内容を計量テキスト分析 (テキストマイニング) ソフトである KH coder (樋口 2020) を用いて言語的な分析を行った。自由記述回答の全ての内容をテキスト化し、高い順に頻出語を自動的に抽出した後、共起関係を分析した。共起の程度が高い語を線で結び、共起ネットワークを作成した。





ントが多かった。さらに、「海外」は、「大学」「友達」「作る」「メリット」「費用」「安い」「経験」と共起関係にあることから、オンライン短期留学は費用が安いというメリットはあるが、海外での友人作りに不安をもっていることが推測できる。また、「機会」は、「課外」「活動」「交流」「少ない」「現地」「不安」と共起関係にあり、オンライン短期留学は、課外活動に参加する機会がなく、現地の人々との交流ができないことに対して不安をもっているコメントが多かった。B2 学生のコメント内容を分析した結果、オンライン短期留学に対する不安に関して大きく分けて、3つの記述のまとまりが見出された。

1つ目の記述のまとまりは、「オンライン短期留学は、現地の人々との異文化交流が難しく、語学力の向上が難しい」という不安である。B2 学生の挙げたコメントの一部は下記の通りである。

・授業を受け、課題をこなすことで、*Reading* や *Writing*, *Listening* のスキルはある程度伸びるかもしれないが、*Speaking* のスキル向上は見込めないのではないかと思う。留学の魅力の一つとして、日常的に英語を使う環境に身を置けることがあると思うため、オンライン留学ではこの魅力は発揮できないのではないかと思う。また、留学の目的は語学力向上だけではないため、異文化や現地の学生との交流などができないという点で、留学が終わった時に、成長したという実感が湧かないと思う。

2つ目の記述のまとまりは、「オンライン留学は、留学費用は安いが、海外の友人を作ることが難しい」という不安であり、以下、B2 学生からの具体的なコメントである。

・オンライン留学の主なメリットは費用の安さだと思うが、現地に行けず、パソコン上で繋がるのみであるため、留学費用が高額であると感じる。留学先の大学でしか学べない専門的な知識を得たいという場合であれば、別であるが、単に語学力向上を求めるならば、もう少し費用を抑えてオンライン英会話に参加する方が良いのではと思う。現在、日本の大学でオンライン授業が続いているが、日本人同士でも友達を作ることが難しい状況である。海外の学生とオンライン授業のみで仲良くなることは限界があると思う。

3つ目の記述のまとまりは、「オンライン留学は、授業以外の課外活動の

機会を得ることが難しい」という不安であり、具体的なコメントは以下の通りである。

・通常の留学プログラムでは授業の他に課外活動や社会見学の方が設けられているが、オンライン留学の場合、授業のみとなる。これは日本の大学の授業と大差はないと思う。また、留学を就職活動時にアピールしたいと考えた時、果たしてオンライン留学は評価されるのか疑問である。世間的にみてオンライン留学とはどのような評価がされるのかわからないが、なんとなく通常の現地留学の方が評価される気がする。

### 3.3.2 オンライン短期留学に対する不安に関する共起ネットワーク (CEFR レベル B1 学生)

CEFR レベル B1 学生 28 名に対して、共起ネットワークによるテキストマイニングを使い、自由記述回答の内容を分析した結果を図 2 に示す。

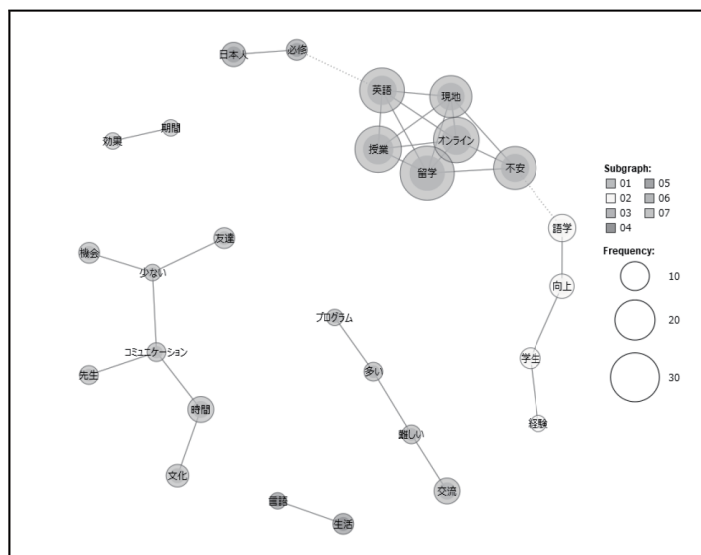


図 2 CEFR レベル B1 学生のオンライン短期留学に対する不安に関する共起ネットワーク

まず、図2の共起ネットワークから中心性が高かった語は、B2学生の結果と同様に「留学」であり、「オンライン」「授業」「現地」「英語」「必修」「日本人」「不安」が共起関係にあり、日本人の留学プログラム参加者も多いため、学生自身が在籍する国内の大学が通常学期に提供する必修英語科目と同じ雰囲気になるのではないかという不安の記述が多かった。また、「コミュニケーション」は、「先生」「時間」「文化」「少ない」「友達」「機会」が共起関係にあり、現地の先生や友達とのコミュニケーションを取る機会が少ないのではないかと不安視する学生が多いことがわかる。さらに、「語学」「向上」「学生」「経験」「不安」が共起関係にあり、オンライン短期留学では、語学力の向上に不安を感じる学生が多いことが示された。B1学生の記述回答の分析の結果、大きく分けて、3つの記述のまとまりが見出された。

1つ目の記述のまとまりは、「オンライン留学は、日本の大学で受講している必修英語科目と同じような環境で受講することになる」という不安であり、B1学生が挙げたコメントは以下の通りである。

・クラスに日本人ばかりになる可能性があるという注意書きがされており、語学中心で学ぶために周りが全員日本人だった場合、今の英語の必修クラスと変わらないのではないかという不安を感じた。現地の大学生と最も違うところは英語力だと思いうため、現地留学で24時間現地の人たちとコミュニケーションが取れる状態の方が、自分としては魅力に感じる。

2つ目の記述のまとまりは、「オンライン留学は、現地の人々との交流が難しく、友人作りも難しくなる」という不安であり、B1学生が挙げたコメントは以下の通りである。

・実際に留学した場合、授業以外の時間（例えば、友人とのコミュニケーションを取る時間やホームステイ先での時間）の方が多く、そこで様々な文化を感じ、交流ができると思うが、オンライン留学ではそれができないため、語学以外に得られるものが少ないことが不安である。また、海外の友人を作ることが実際に留学するよりも難しいと考えられ、困ったことがあった時に聞く相手がいるのかどうか不安である。

3つ目の記述のまとまりは、「オンライン留学では、英語を話す環境にい

ないため、語学力の向上が見込めない」という不安であり、B1 学生が挙げたコメントの一部は以下の通りである。

・自宅で留学期間を過ごす場合、授業以外では家族などと日本語で話すことになると思うため、大学の英語の授業とあまり変わらないのではないと思う。その点で、費用がもう少し安いと嬉しい。留学期間中はホテルで過ごし、話し相手はオンラインツールを使って英語話者だけに定めると効果が上がるのではないかと思った。さらに、オンライン留学期間中のホテル滞在費も含まれているならば現在の研修費用でオンライン留学してみたいと思う。

## 4 調査結果（オンライン短期留学参加者対象）

### 4.1 回答者の概要

本調査の有効回答数は、全体で 42 件であった。短期留学プログラムを提供した米国の大学にもアンケート調査の協力を求めたため、S 大学以外の参加者の回答も含まれている。CEFR レベル C1 および A2 の学生はいなかったため、本調査では、CEFR レベル B1 および B2 の 2 つのグループに分け、各質問項目について分析を行った。CEFR レベル B1 学生は 34 名、CEFR レベル B2 学生は 8 名であった。オンライン短期留学の授業を履修した場所については、全員が自宅であった。

### 4.2 量的調査結果

表 7 では、オンラインによる短期留学プログラム A、短期留学プログラム B、または、短期留学プログラム C に対し、実際にオンライン留学に参加した学生の満足度を調査し分析を行った。「とてもそう思う」を 4 点、「ややそう思う」を 3 点、「あまりそう思わない」を 2 点、「全くそう思わない」を 1 点とし、平均値と変動係数を算出した。表 7 において、項目①から⑨は、それぞれ、①留学期間に対する満足度、②留学費用に対する満足度、③留学先をアメリカにしたことに対する満足度、④プログラム終了後、語学力の向

上を実感したか、⑤単位認定できるプログラムであることに対する満足度、⑥国内外の学生との交流機会に対する満足度、⑦授業以外での海外活動やアクティビティに対する満足度、⑧学生自身が所属する大学が提供する英語授業と比較した場合の留学プログラムの満足度、⑨全体的なオンライン留学プログラムに対する満足度を示している。

表7 オンライン短期留学後の振り返り調査結果

項目	CEFR レベル B1 学生				CEFR レベル B2 学生			
	度数	平均値	標準偏差	変動係数	度数	平均値	標準偏差	変動係数
①	34	2.62	0.65	24.81	8	2.63	0.52	19.77
②	34	2.72	0.67	24.63	8	2.62	0.52	19.85
③	34	3.56	0.75	21.07	8	3.50	1.07	30.57
④	34	2.76	0.55	19.93	8	3.00	0.54	18.00
⑤	34	2.09	0.90	43.06	8	2.63	1.06	40.30
⑥	34	2.41	0.61	25.31	8	2.50	0.76	30.40
⑦	34	2.32	0.64	27.59	8	2.50	0.76	30.40
⑧	34	3.09	0.51	16.50	8	3.25	0.71	21.85
⑨	34	3.03	0.52	17.16	8	3.38	0.52	15.38

※項目①留学期間、②留学費用、③留学先の国、④語学力向上、⑤単位認定、⑥国内外の学生との交流機会、⑦課外活動やアクティビティ、⑧英語授業内容の国内大学との比較、⑨全体的な満足度

平均値が最も高かった項目は、B1 学生と B2 学生ともに米国を留学先として選択したことであり、次に平均値が高かった項目は参加学生の所属する大学のオンラインによる英語授業よりも米国の大学が提供する英語授業の満足度が高いことが示された（表7）。また、それぞれの項目の平均値と標準偏差から変動係数を求め、変動係数を比較したところ、B2 学生の留学先としてアメリカを選択したことに対する満足度の平均値の値は高いが、変動係数が大きく、B2 学生の間には留学先の満足度についてばらつきがあることがわかる。その他の項目では、留学プログラム参加後に単位が付与されることに対する満足度に関しても B1 学生と B2 学生ともに変動係数が大きく、学生の間にはばらつきがあることが示された。オンライン留学プログラムに対する全体的な満足度については、B1 学生と B2 学生ともに高い平均値が示され、変動係数から見た学生の間での大きなばらつきもないことから、学生の

満足度を満たすオンライン留学プログラムであったことが調査結果から示された。

#### 4.3 オンライン留学の良かった点および改善を希望する点(質的調査結果)

短期海外留学プログラムに参加した42名(CEFRレベルB1学生34名、CEFRレベルB2学生8名)の学生に対し、オンライン留学プログラムに参加して良かったと感じた点と改善を希望する点についての自由記述回答の分析を行った。自由記述回答の全ての内容をテキスト化し、高い順に頻出語を自動的に抽出した後、共起関係を分析するため、計量テキスト分析ソフトを用いて共起ネットワークを作成した。

##### 4.3.1 オンライン留学に参加し良かったと感じた点に関する 共起ネットワーク(CEFRレベルB1学生)

CEFRレベルB1学生34名に対して、共起ネットワークによるテキストマイニングを使い分析した結果を図3に示す。共起ネットワークから中心性が高かった語は「自分」であり、「話す」「自信」「大学」と共起関係にあることから、英語力を高めることができたというコメントが多かった。また、「機会」と「学べる」と共起関係にあり、「先生」「理解」「多い」も共起関係にある。B1学生のコメントを分析した結果、学生が良かったと感じた点について3つの記述のまとめが見出された。

1つ目の記述のまとめは、「オンライン短期留学は、英語を話すことに対して自信をつけることができた」というメリットである。B1学生の挙げたコメントの一部は下記の通りである。

- ・自分の語学レベルを知ることができ、英語に自信がついた。
- ・自分がどの程度英語を用いてコミュニケーションを取れるかをだいたい理解することができ、今後活かせる。

2つ目の記述のまとめは、「オンライン短期留学を通じ、実践的な英語を学ぶことができた」というメリットである。B1学生の挙げたコメントの一部は以下の通りである。

- ・英語をアウトプットする機会がたくさんあり、実践的な英語を学ぶこ

とができた。

・英語でディスカッションする機会が多くあり、また、留学先の先生だけではなく、学生とも交流する機会がたくさん学ぶことができた。

3つ目の記述のまとめは、「毎日、英語のネイティブ教員との授業を受けることができ、相手に理解してもらうための英語力を身に付けることができた」というコメントが多かった。B1 学生のコメントの一部は以下の通りである。

・日本語を理解できない先生が多く、英語で理解してもらうための力を習得することができた。

・毎日、ネイティブの先生の授業を受けることができ、留学に行きたいという気持ちがさらに強くなった。

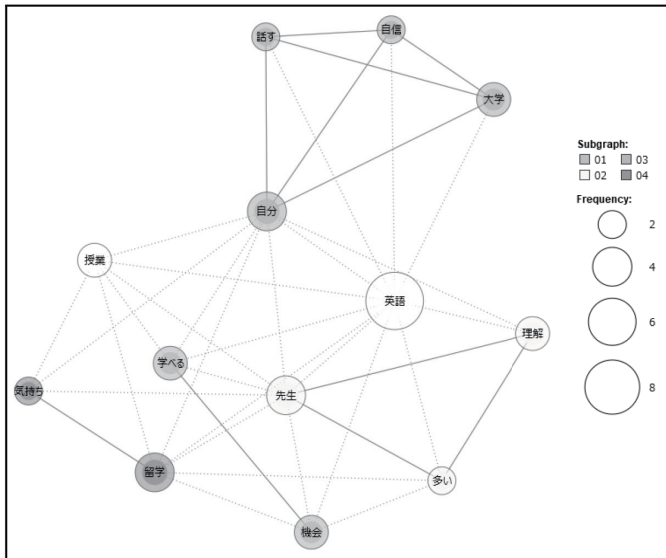


図3 オンライン留学に参加し良かったと感じた点に関する共起ネットワーク  
(CEFR レベル B1 学生)

### 4.3.2 オンライン留学に参加し良かったと感じた点に関する 共起ネットワーク (CEFR レベル B2 学生)

次に、CEFR レベル B2 学生に対して、共起ネットワークによるテキストマイニングを使い、分析した結果を図 4 に示す。図 4 の共起ネットワークから中心性が高かった語は、「英語」であり、「グローバル」「幅広い」「視野」と共起関係にあり、B1 学生とは異なる点で感想を述べている。記述のまともりは、「オンライン留学は、幅広い視野を得ることができ、大学卒業後、グローバル企業等で活躍するための知識や情報を得ることができた」と考える学生が多く、B2 学生が挙げたコメントは以下の通りである。

- ・今後、グローバル企業と世界で活躍するためのコミュニケーション能力、幅広い視野をもとに課題解決能力を発揮・実践したいと思った。
- ・今後のキャリアステップにおいて、自己破壊を恐れない十人十色のグローバル人材たちと共に社会貢献を実現したいと新たな目標を掲げることができた。

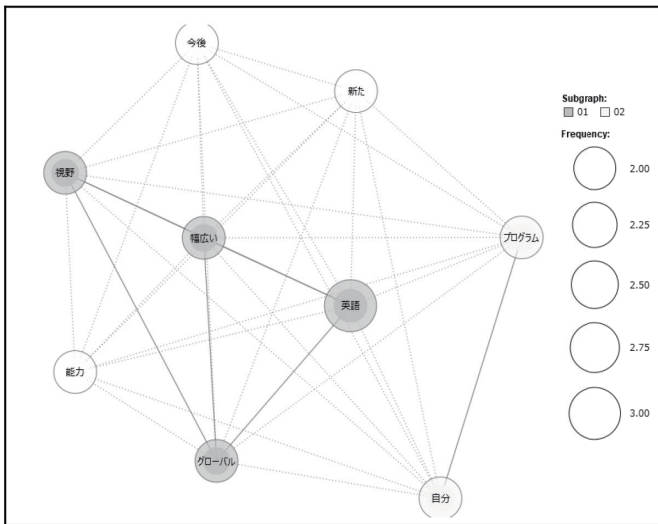


図 4 オンライン留学に参加し良かったと感じた点に関する共起ネットワーク  
(CEFR レベル B2 学生)



### 4.3.3 オンライン留学に対して改善を希望する点に関する 共起ネットワーク (CEFR レベル B1 学生)

CEFR レベル B1 学生に対して、テキストマイニングを使い、オンライン留学プログラムに対して改善を希望する点を分析した結果を図 5 に示す。

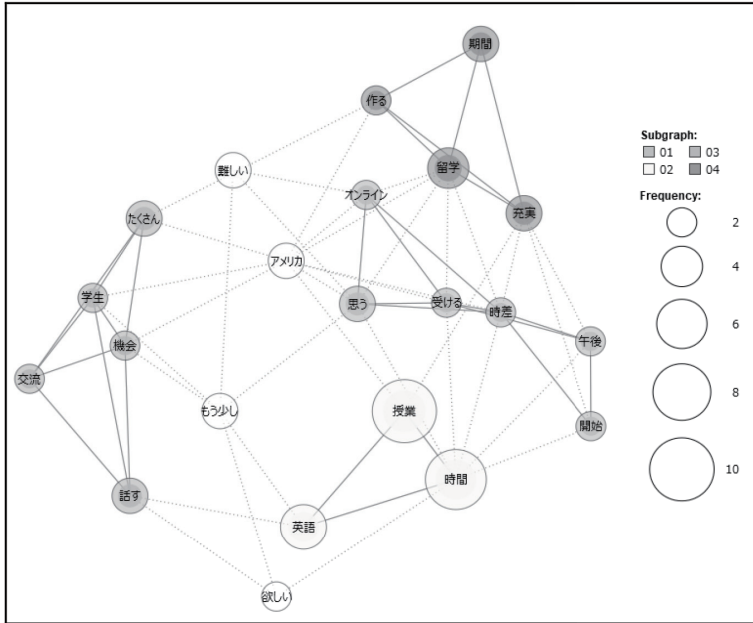


図 5 オンライン留学に対して改善を希望する点に関する共起ネットワーク  
(CEFR レベル B1 学生)

まず、図 5 の共起ネットワークから中心性が高かった語は、「留学」であり、「充実」「期間」「作る」が共起関係にあり、留学期間について改善を求めるコメントが多かった。また、「オンライン」が「時差」「午後」「開始」「受ける」「思う」と共起関係にあり、授業開始時間や発言する機会などについて改善を求めるコメントが多かったことがわかる。「授業」が「時間」「英語」と共起関係にあり、また、「学生」が「交流」「機会」「たくさん」「話す」と共起関係がある。B1 学生の自由記述回答の分析の結果、大きく分けて、4 つの記述のまとまりが見出された。

1つ目の記述のまとめは、「留学期間が短いため、参加者が留学期間を自由に調整できるシステムを提供してほしい」という希望が多く、B1 学生が挙げたコメントは以下の通りである。

- ・留学期間が短かったので、留学期間を1週間単位で選べるシステムを作してほしいです。
- ・私は、日本との時差を気にせずにアメリカ時間で授業を受けるほうが、留学している気分になれると思った。オンライン留学には限界があると思う。

2つ目の記述のまとめは、「時差があることは理解できるが、開始時間が早く、午後にも授業を提供してほしい」という希望が多かった。B1 学生が挙げたコメントは以下の通りである。

- ・午後にも授業を受けることができれば、英語漬けになれる時間が増えるので検討してほしいです。
- ・授業開始時間が早かったです。時差があることは仕方ないことですが、午後にも授業があるともっと充実できたと思います。

3つ目の記述のまとめは、国内外の参加者との英会話の時間や授業以外での交流イベントの充実を希望する学生が多かったことである。B1 学生が挙げたコメントは以下の通りである。

- ・授業以外で他の学生と交流する時間がなかった点（同じクラスでもほとんど話さなかった人もいた）。また、ブレイクアウトルームで割り振られた会話の時間は、放り出されているようで長すぎるように感じた点。
- ・頭で思っていることを英語で伝えることの難しさを実感しました。英会話の時間がもっとあればよかったです。また、もう少し難しい内容の授業に挑戦したかったです。

4つ目の記述のまとめは、現地の学生との交流機会を増やしてほしいと希望する学生が多かったことであり、ホームステイもできないため、オンライン留学でも現地の人々と交流する機会の提供を強く求める学生が多かった。B1 学生が挙げたコメントの一部は以下の通りである。

- ・秋学期の英語のオンライン授業とあまり変わらない気がしたため、もう少し工夫してほしいと思った。例えば、アメリカ人の学生たちと話す機会

が沢山あるとスピーキング力がついたかもしれない。

- ・現地の学生と交流する機会がたくさんあると嬉しいです。

#### 4.3.4 オンライン留学に対して改善を希望する点に関する 共起ネットワーク (CEFR レベル B2 学生)

次に、CEFR レベル B2 学生に対して、共起ネットワークによる自由記述回答の内容を分析した結果を図 6 に示す。

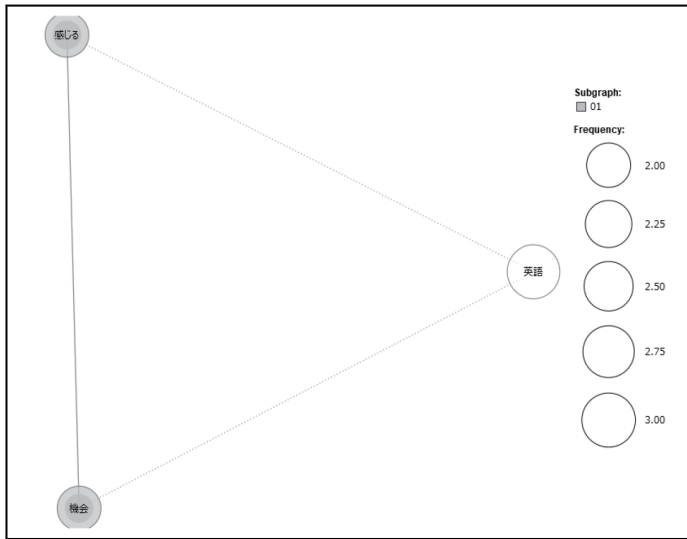


図 6 オンライン留学に対して改善を希望する点に関する共起ネットワーク  
(CEFR レベル B2 学生)

「英語」「機会」「感じる」が共起関係にあり、記述のまともりは、「オンライン留学プログラムの授業の中で、英語を話す機会や発音を矯正する機会を増やしてほしい」と感じる学生が多く、B1 学生とは異なる改善の要望が示された。B2 学生のコメントの一部は以下の通りである。

- ・実留学に比べて、英語に触れる機会が少なく感じたので、もう少し英語を話す機会があるとよかったです。

- ・課題がもっとあってもよかったと思うし、英語の発音を厳しく直してほしかった。

## 5 考察と今後の課題

### 5.1 考察

#### 5.1.1 オンライン短期留学における課外活動の意義

多くの学生が、留学先での課外活動を通じて、現地の人々との交流や現地での友人作りを期待していることが示された。オンラインの海外語学研修プログラムでは、課外活動の一環として、留学先大学のキャンパスや市内のバーチャルツアーが含まれているが、バーチャルツアーに物足りなさを感じている学生もいる。学生が短期留学に求めていることは、ホームステイなどを通じた現地の人々との交流や授業終了後の参加学生や同年代の現地学生との交流を含む課外活動であり、事前に録画された風景を視聴するバーチャルツアーではないことは明らかである。

また、オンライン短期留学プログラムBでは、現地の学生と共に身近な話題をテーマとした会話練習を週1回程度実施する課外活動が含まれているが、国内外の学生との交流の機会を強く望む学生が多いため、週1回程度の現地学生との交流では満足しないことが留学プログラムに参加した学生を対象とした調査結果から示された。多くの学生は大学が提供しているZOOM等を活用したリアルタイム配信型授業等を経験しており、ZOOMを使ったオンライン上での交流を通じて友人を作ることの難しさをすでに実感していることも本調査から明らかになった。また、授業がない午後の時間帯を有効に活用したいと回答した学生が多かった。この改善策の案として、オンライン授業終了後の午後の時間帯に、現地の大学で日本語を学ぶ学生との交流の機会を設け、毎日授業終了後に日米間の社会問題や文化の違い等について話し合う機会があれば、学生のオンライン短期留学プログラムに対する満足度がさらに高まる可能性がある。現地学生との交流を実施するためには、米国との時差の問題を解決する必要があるため、オーストラリアなどの英語

圏の大学であれば、実現可能であると考ええる。

また、短期留学プログラムCでは、同じホテルに参加者が滞在し、夜遅くまで様々な社会問題の解決策をグループで話し合い、プレゼンテーションなどを行う研修である。通常の現地留学プログラムとは内容が異なり、オンライン短期留学プログラムCも他のオンライン短期留学プログラム同様に、毎日午前中で終了する研修となる。午後は、課外活動の一環として、学生同士でのプレゼンテーションの準備やグループディスカッション等の交流の機会を設けることも学生のオンライン短期留学プログラムの満足度を高めるための改善策の一つとなる可能性がある。参加者は近隣のアジア諸国の学生のため、時差を気にすることなく、授業時間外の交流の機会を設けることによって、学生の満足度を高めることが可能である。

本調査を通じ、学生のオンライン短期留学に対する満足度を高めるためには、授業終了後の午後の時間帯を有効に使い、充実したプログラム内容を作り上げることが重要であることがわかった。そのためにも、各留学プログラムを担当する派遣大学側の教員の役割も大きいと考える。

### 5.1.2 オンライン短期留学の授業を受講する場所

オンライン留学に参加した本調査の対象者全員が自宅で受講していたことが示された。オンライン留学プログラム内容の魅力度を測る調査では、CEFR レベル B2 学生の半数が、オンライン授業を集中して受けたい場所として大学の教室や PC ルーム等での受講を希望していることが明らかになった。Lipinski (2014) は、米国の大学生 29 名とハンガリーの大学生 65 名を対象にオンライン短期留学を実施した。それぞれの大学の授業を毎回大型スクリーンに映し出し、英語で授業を実施した結果、学生の異文化意識や基礎的な知識を習得する意欲を高める学生が増えたことが示された (p.112)。また、小玉 (2018) は米国の大学で日本語を学ぶ学生と日本の学生を対象にオンラインで共有された学習環境の下で、日米間の文化について討議する授業を複数回実施したところ、受講者は物事を批判的に捉える力、自己や民族を超えた相対的な視点を修得し、学生の世界観が変容する姿を観察することができたと述べている (p.106)。今後、新型コロナウイルス感染症の拡

大が収まってきた場合、各プログラムの参加学生が大学の教室に集まり、大型スクリーンに映し出される海外からのライブ授業を通して、臨場感あふれる海外の大学の授業の受講や現地学生との異文化交流の場を設けることにより、オンライン短期留学の授業に対する魅力や満足度を高めることに繋がると考える。

### 5.1.3 英語力向上に対する不安

学生がオンライン短期留学に対して持っている不安の一つが、通常学期に大学が提供する、ZOOMを使用したリアルタイム配信型のネイティブ教員による必修英語科目との違いを見出すことができないことである。

通常の現地留学で英語圏の国に留学した場合、全ての環境において英語を話すことができる環境に身をおくことができるが、オンライン短期留学ではそのような環境を作り出すことが難しく、語学力の向上が見込めないのではないかと不安視する学生が多くいることが本調査で明らかになった。特にCEFR レベル B1 学生は、B2 学生に比べ、オンライン短期留学による語学力の向上について不安を感じている学生が多くいる。一方で、オンライン短期留学プログラムに実際に参加した B1 および B2 学生の多くが、語学力の向上を実感していることが明らかになったが、自由記述回答のコメントの中には、語学力の向上について否定的な感想を述べた学生も見受けられた。

また、状況は異なるが、Skype を活用した 1 対 1 のオンラインによる英会話の授業を受けた学生の多くは、語学力が向上し、英語でのコミュニケーションを行う自信を身に付け、英語に対する意識の変化が示されたという調査報告がある（三田, 2014；竹下, 2017）。本調査の学生が不安視する、授業以外は英語を話す環境にいないために語学力の向上は見込めないと考える学生は、留学先の現地スーパーやホームステイ先で英語に触れる機会がないため、費用対効果が見込めないと考えている可能性がある。学生の費用対効果に対する不安を軽減するための効果的なオンライン短期留学の仕組みや工夫を検討し導入することが重要である。それと同時に、参加する学生がどのような姿勢でオンライン短期留学に参加することで、最大限の効果を得られるのかを事前・事後学習で伝えることが重要である。

## 5.2 今後の課題

本調査では、大学が提供する通常の現地留学とオンライン短期留学の両方を経験したことがない学生を対象に調査を行った後、実際にオンライン短期留学に参加した学生を対象とする意識調査を行った。留学先の国・地域や単位認定される点については、とても魅力的に感じると考える学生が多かったが、国内外の学生や現地の人々との交流の機会の少なさなどの理由からオンライン短期留学を否定的に捉えている学生が多いことが明らかになった。さらに、就職活動の際にオンライン短期留学経験がどのように評価されるのかを不安視する学生も複数いた。また、オンライン短期留学費用の相場を知らない学生たちがほとんどであるため、大学が提供する研修費用が安いのか高いのかを判断することは難しい。

今後は、夏休みや春休み期間中にオンライン短期留学を経験した学生や、長期留学中に帰国を余儀なくされ、国内の自宅等で留学先が提供するオンライン授業を受講した経験を持つ留学体験者を対象とし、通常の現地留学とオンライン留学の相違点や類似点を分析する。また、現地短期留学とオンライン短期留学の2つを経験した学生の意見を分析し、オンライン短期留学の充実度をさらに深く分析する必要がある。オンライン短期留学中の自宅以外での受講場所の提供や課外活動の充実等の付加価値を付け、短期留学プログラムを主催する国内大学側と海外の教育機関側の両者が学生をサポートできる体制を整え、魅力的かつ効果的なオンライン短期留学プログラムを提供することがオンライン短期留学の参加者数を増やすために重要であると考えられる。

## 引用・参考文献

- 1) Durden, W. (2020) Here's a new way to do study abroad during the COVID-19 pandemic and beyond, *THE CONVERSATION*.  
[<https://theconversation.com/heres-a-new-way-to-do-study-abroad-during-the-covid-19-pandemic-and-beyond-138931>] (2020年11月15日参照)
- 2) 文部科学省「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」2018年3月 [ [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/30/03/\\_icsFiles/](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/_icsFiles/)

afieldfile/2019/01/15/1402610\_1.pdf] (2020年11月15日参照)

- 3) 一般社団法人国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEIC® Program 各テストスコアとCEFRとの対照表」[[https://www.iibc-global.org/toEIC/official\\_data/toEIC\\_cefr.html](https://www.iibc-global.org/toEIC/official_data/toEIC_cefr.html)] (2020年11月15日参照)
- 4) 樋口耕一(2020) 社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目指してー第2版:ナカニシヤ出版.
- 5) Lipinski, J. (2014) Virtual Study Abroad: A Case Study, *Atlantic Marketing Journal*, 3 (3), Article 7, 102-113.
- 6) 小玉安恵(2018) オンラインによる異文化間協働型の日本文化の授業COILの試みー異文化間で活躍できる人材の育成をめざしてー. 日本語教育, 169, 93-108.
- 7) 三田薫(2014) スカイプ®英会話を活用した短期大学英語授業の試みーフィリピン人講師との1対1のオンライン英会話レッスンを授業に組み込むことによる効果ー. 実践女子短期大学紀要, 35, 19-43.
- 8) 竹下裕子(2017) 大学の授業にフィリピン人教員によるオンラインレッスンを導入する意義ー実証実験より. 東洋英和女学院大学教職課程研究論集, 44-58.